

凜

6月の花・アジサイ
花言葉「辛抱強さ」

道徳教育の充実

小学校で今年の4月から教科として位置づけられた「特別の教科 道徳」。中学校では平成31年度から教育課程に位置付けられることになりました。答えが一つではない道徳的な課題を、生徒一人一人自分自身の問題としてとらえ向き合う、「考える道徳」、「議論する道徳」へと転換を図るもので、自立した人間としてよりよく生きようとする意志や能力を育むことを目的としています。昨年に引き続き、3年C組では、こうした「考える道徳」、「議論する道徳」意識しながら授業を行っています。

道徳科における学習

道徳

道徳的価値について理解する

自己を見つめる

物事を多面的・多角的に考える

自己の生き方について考えを深める

「考え、議論する道徳」とは、子どもが常に自己の生き方を見つめながら、みんなで多様な視点から話し合い、語り合うことを通して自己のよりよい生き方を考えていく学習

【授業の流れ】

5月30日（水） 『言葉惜しみ』 価値項目：礼儀

ねらい：挨拶や礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとる。

① 《自分をふりかえる》

①自分の経験をもとに挨拶についての価値観を考えてみる

記事のあらすじ[毎日新聞社記事 2001/5/2] <京都市総合教育センター編>
福岡県のある私立高校。生徒の挨拶をABCの3段階評価を導入。最低のCを取った生徒は卒業や進級が認められない。学校は「教科の点がよいだけでは困る。生活態度を評価し、総合的に人をつくるのがねらい。生徒は全員納得してくれたと思う」と話す。試験導入した際にはCの生徒はいなかったという。

考えや想像を巡らせる場面



子どもたちの考えを視覚化

- 【賛成】 挨拶ができないと自立していけないから (γ)
 挨拶は学校だけでなく社会でも必要だから身に付けたい (○○)
- 【反対】 日常から普通にできればいいもの、いやいやでやるものではない (▲▲)
 成績のためにやるのは気持ちがこもっていない (◆◆◆)

物事を多面的・多角的に考える・議論し《深化》させる場面

賛成・反対どちらにしても挨拶が大切なことを知る。礼儀の基本は、相手の人格、相手に対して敬愛する気持ちが大切なことを知る。(興味・関心)
 ⇒では、挨拶や礼儀はどんなときも同じなのだろうか？

②読み物資料『言葉惜しみ』p78・・・本文を読む

あらすじ

場面1【駅の新しくできた自動改札口での出来事】

女性 いつもと勝手が違って手間取り「もたもたしてしまってすみません」
 後ろの男性 「どういたしまして。ごゆっくり」

場面2【込み合っている劇場のトイレでの出来事】

70近い女性 順番が来て、個室に向かうとき後ろの並んでいる人に「お先に。」
 用を済ませて戻ってきたら、次の人に「お待たせしました」

場面3【病院での出来事】

Kさん 待合室で名前を呼ばれ大きな声で「はい」
 周りの人は一斉に振り向いた。他の人は呼ばれても返事をしない。

こうした経験についてみんなと共有する (道徳的価値の補充)

価値に向かわせるために考えさせ、副読本を活用し《補充》させる場面

- ・外国の人がプールのロッカーの使い方がわからなく教えてあげたら、丁寧にお礼を言われた (▽▽)
- ・レストランで店員が水を入れに来たとき、入れてもらっても周りの客は何も言わないが、自分は「すみません」と言った (◎◎)

自己の生き方を見つめる場面をみんなと共有する (道徳的価値の深化)

自己の生き方を見つめ《深化》させる場面

Q 3つの場面から「返事」や「あいさつ」は、その場の雰囲気はどう変えますか？

- ・その日一日の気分がよくなる (※※) ・イライラが収まりその場がいがごちがよくなる (☆☆)
- ・堅いイメージから柔らかく温かい雰囲気になる (▲▲) ・互いにすがすがしくなる (★★)
- ・緊張した空気が少し柔らかくなって和む (●●) ・心が温まり、自分もしてあげたくなる (##)
- ・明るい雰囲気になり、笑顔になれる (！！) ・とてもいい気分、周りの雰囲気がよくなる (**)

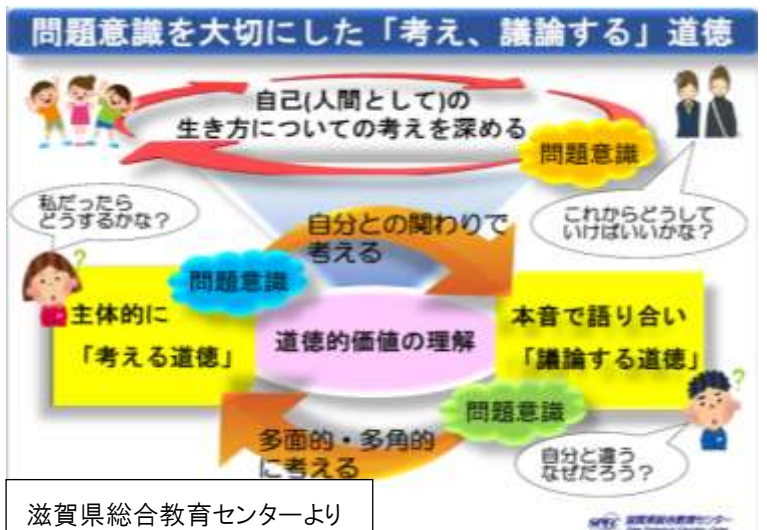
③《自分はこうしたい》

「返事」や「挨拶」をするとき、どんなことを心がけていきたいか考えよう。

- ・相手を思いやり、自分がされてうれしい挨拶をする (△◇)
- ・気持ちを込めてあいさつし、相手も元気になれるようにする (◎！)
- ・相手の気持ちを考えわかりやすく、受け取る側が困らない話し方をする (～)
- ・相手の目を見て、小さなことでも気持ちを込めてお礼する (㊦㊦)
- ・相手も自分もよかったなどと思える挨拶をする (↓↓) ・相手を気遣う気持ちを持つ (// //)
- ・自分が場を明るくしようという気持ちで関わる (HIII) ・相手を大切に優しい雰囲気でする (㊦㊦)
- ・自然に自分から言えるようにする。(IO3) ・相手の目を見て、きちんと止まって挨拶をする (㊦㊦)
- ・声が届かない相手でも感謝の気持ちを伝えるために身振りなども加えてする (Å\$)
- ・その場に合わせた言葉遣いで相手の気持ちを考える (÷○)
- ・その場に合った言葉遣いをし、明るく挨拶する (III干)
- ・「ありがとう」と言われたら、「どういたしまして」みたいにきちんと返答する (ΩΘ)
- ・一期一会を大切に心を込めて相手に接する (㊦)

⇒意味：一生に一度だけの機会のこと (もともとは茶道からの語源・・・その機会は二度と繰り返されることのない、一生に一度の出会いであるということを得て、亭主・客ともに互いに誠意を尽くす心構えを意味する)

自己の生き方について考えを深め、価値を《深化》《統合》させる場面



滋賀県総合教育センターより